



「ホントカ。」にて開催しました。
議会報告会&意見交換会

新潟県へ意見書を提出
公的医療機関の充実・地域医療の維持・存続を求める意見書

- ◆ 民生産業委員会の継続調査報告
- ◆ 議会運営委員会視察報告
- ◆ 新潟県立小千谷高等学校座談会

令和7年新年挨拶



議長
上村 行雄

明けましておめでとうございます。市民の皆様には健やかに新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は市政施行70周年、さらに中越大地震から20年という節目の年でありました。人口減少や少子高齢化という課題に直面する中、小千谷市が持続可能な未来を築くためには、市民、行政、そして市議会が力を合わせ、知恵を出し合う必要があります。私たち市議会は、透明性と信頼性の高い運営を心がけ、市民の皆様との対話を大切にし、市民の声を的確に政策に反映させ、未来を見据えたまちづくりに向けて全力で取り組む決意であります。

本年が市民の皆様にとって希望に満ちた一年となり、小千谷市がさらなる飛躍を遂げる年になることを心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

新潟県に意見書を提出

「公的医療機関の充実・地域医療の維持・存続を求める意見書」を提出しました。

令和6年第4回定例会初日に発議し、全会一致で可決された同意見書を12月16日に上村議長と阿部民生産業委員長が新潟県庁に持参し、新潟県福祉保健部長に提出しました。

提出後、意見書提出に至った現状と経過を説明し、県と意見交換を行いました。



民生産業委員会 継続調査報告

事項：地域医療体制維持に関する事項全般

目的：地域医療体制維持のため

方法：関係機関等からのヒアリング

〔JA 新潟厚生連 小千谷総合病院〕

〔特別養護老人ホーム 小栗田の里〕

〔小千谷市消防本部〕

期間：令和6年9月25日～11月28日まで

小千谷市の地域医療は、小千谷総合病院を中心に展開されるが、医師不足や専門診療科の維持が困難で、経営が厳しい現状にある。特に高齢化に伴い、医療と介護の連携が重要であり、介護施設では人材不足や経営コスト増加が深刻化している。また、救急搬送件数の増加や市外搬送の増加が課題であり、消防本部と医療機関の連携強化が求められている。調査を通じ、地域医療の持続には医療機関、介護施設、消防本部の連携が不可欠であり、外来患者や入院患者の確保、介護保険事業との連携強化が必要であると判明した。行政、医療機関、介護施設、地域住民が協力して地域医療基盤を強化する取り組みが急務である。



第4回定例会 議決結果（11月29日から12月24日まで開催）

議案番号等	議 件 名	議決状況	議決結果	
条例	議案第96号	小千谷市一般職の任期付職員の採用等に関する条例の一部を改正する条例の制定	全会一致	原案可決
	議案第97号	小千谷市議会の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定	賛成多数	〃
	議案第98号	小千谷市長、副市長及び教育長の給与額並びにその支給に関する条例の一部を改正する条例の制定	賛成多数	〃
	議案第99号	小千谷市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定	全会一致	〃
	議案第100号	小千谷市会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定	〃	〃
予算	議案第90号	専決処分（令和6年度小千谷市一般会計補正予算（第6号））	〃	承認
	議案第91号	令和6年度小千谷市一般会計補正予算（第7号）	〃	原案可決
	議案第92号	令和6年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号）	〃	〃
	議案第101号	令和6年度小千谷市一般会計補正予算（第8号）	〃	〃
	議案第102号	令和6年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	〃	〃
	議案第103号	令和6年度小千谷市介護保険特別会計補正予算（第3号）	〃	〃
	議案第104号	令和6年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算（第4号）	〃	〃
	議案第105号	令和6年度小千谷市ガス事業会計補正予算（第2号）	〃	〃
	議案第106号	令和6年度小千谷市水道事業会計補正予算（第2号）	〃	〃
	議案第107号	令和6年度小千谷市工業用水道事業会計補正予算（第1号）	〃	〃
その他	議案第108号	令和6年度小千谷市下水道事業会計補正予算（第2号）	〃	〃
	議案第93号	契約の締結	〃	〃
	議案第94号	字の変更	〃	〃
発議	議案第95号	新潟県市町村総合事務組合規約の変更	〃	〃
	発議案第7号	公的医療機関の充実・地域医療の維持・存続を求める意見書	〃	〃
	発議案第8号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書	〃	〃
請願	発議案第9号	北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書	〃	〃
	請願第5号	年金積立金を活用して安心して生活できる公的年金を求める請願	賛成少数	不採択
	請願第6号	「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働是正に係る意見書の採択を求める請願	みなし	採 択

※議決状況の「みなし」は、その請願に対応した同趣旨の意見書の発議案が提出され、先に採決したので、その議決結果をもって採択されたものとみなします。

議員賛否の状況（採決において賛否が分かれたもの）

議案番号等	議決結果	賛成	反対	廣井良宣	佐藤勝義	和田忠篤	佐藤瑞穂	高木健太	平澤智	阿部守男	内山博志	上村行雄	住安 康一	駒井和彦	森本恵理子	佐藤隆一	久保田陽一	長谷川有理	田中淳
議案第97号	原案可決	10	5	○	○	○	○	○	○	×	×	—	○	×	○	○	○	×	×
議案第98号	原案可決	11	4	○	○	○	○	○	○	×	×	—	○	×	○	○	○	×	○
請願第5号	不採択	3	12	×	×	×	×	×	×	×	○	—	×	×	×	○	×	○	×

※ ○は賛成、×は反対、議長（上村行雄）は採決に加わりません。

常任委員会報告

総務文教委員会

委員長 平澤 智

議案1件を原案のとおり可決すべきもの、請願1件を採択すべきものとしました。

○議案第91号 令和6年度小千谷市一般会計補正予算(第7号)

主たる質疑として

・チャレンジショップ事業において、本年度の事業計画及び新年度を見据えた計画について・除雪対策経費において、県の消雪施設種生揚水機場の事業概要について・定住促進マイホーム取得補助金の補助対象及び件数についてなどがあり、歳入では、基金繰入金において、夢の懸け橋基金の活用についてというものがあり、討論はなく、採決の結果、全員異議なく原案のとおり可決すべきものと決しました。

○請願第6号 「持続可能な学校の実現をめざす」実効性ある学校の働き方改革、長時間労働は正に係る意見書の採択を求める請願主たる質疑として

・いわゆる給特法に対する教職員の意見について・勤務実態調査後の具体的な必要措置について・標準授業時数の削減及び教職員定数の改善についてなどがあり、意見討論はなく、採択すべきものと決しました。

民生産業委員会

委員長 阿部 守男

○議案第92号 令和6年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)

質疑として 広域連合を構成する

他市町村の補正額状況について、療養給付費の追加支払いの背景。意見討論はなく採決の結果可決。

○請願第5号 年金積立金を活用して安心して生活できる公的年金を求める請願

質疑として 積立金取り崩しによる将来的な財源不足のリスクや市場変動リスク、他社会保障制度とのバランスと影響、年金基金運用の情報、年金運用資金の必要性や残高、マクロ経済スライド終了の根拠と影響、利子配当金の累積金額期間について。

討論として 具体的な積立金の活用とマクロ経済スライドの廃止を訴えるものであり、その件に関しては賛同することができないため反対。採決の結果、起立少数により不採択。

令和6年11月16日 土曜日 議会報告会 意見交換会 ホントカ。演アンカー にて開催しました。

〔議会報告会〕

- ・令和5年度小千谷市一般会計歳入歳出決算認定について
- ・定例会におけるガス事業に関する議案についての質疑
- ・令和5年度 企業会計決算および特別会計決算について
- ・民生産業委員会における継続調査について

〔意見交換会〕

- ・若者の居場所づくりについて
- ・農林水産業全般について

意見交換会では、地域活性化や若者支援、公共交通整備、農業振興に関する多くの意見が寄せられました。地域の賑わいを取り戻すため、シャッター街の改善や空き店舗を活用した施策、若者が集える場所の整備や地域活動への参加促進が求められました。また、公共交通の利便性向上や施設利用のしやすさの向上、移住促進に向けた働く場の確保と外部事例を参考にして欲しいなど。農業では、収入改善や次世代投資、耕作放棄地の解消に向けた若者参入の促進が課題とされ、特産品の価値向上やブランド保護も期待されています。さらに、健康増進施設や双方向型情報発信の充実、財政負担軽減を含む持続可能な市政運営を望む声が聞かれました。



駒井 和彦 議員



人口激減下における今後のイベント・事業の見直し等について

質問 今後の学校や教育環境の在り方の根底にコンパクトシティー構想があるのか。

教員長答弁 その構想は無い。

質問 保育士の処遇改善等と保育行政運営の今後について。

教育長答弁 今後も適切に対応する。保育行政についても、学校の在り方検討委員会の中で具体的な実施計画の検討を進める。

質問 運動施設（千谷、河川運動公園、南部、片貝スポーツ広場）の今後の管理運営について。

答弁 指定管理者制度の検討はしないが、効率的な管理運営について研究していく。

質問 ときめきめぐりあい事業の今後について。

答弁 継続し結婚を望む方への支援に取り組み。

質問 おぢや風船一揆の今後につ

いて。

答弁 実行委員会で検討頂きたい。熱気球は専門家や関係機関と連携し研究していく。

質問 重点政策プロジェクトチームの成果等について。

答弁 おぢやつつみ、山本山天空のひまわり畑、モクモク、ワイワイ開設に繋がった。

質問 山本山山頂駐車場周辺整備について。

答弁 山本山全体の魅力再生を検討する中で、併せて検討していく。

柏崎刈羽原発再稼働について

質問 自然エネルギーの普及等を今以上に推進し、原発は廃炉にするべきではないか。

答弁 普及については国・県に補助制度の拡充を働きかけるが、原発は国策、廃炉に言及は出来ない。

質問 今後実施される被ばくシミュレーションに対する見解は。

答弁 避難の実効性を考える上で、一つの判断材料になるものである。

質問 11月19日新潟日報社説の見解と署名活動の意義について。

答弁 一報道機関の論説に意見しない。知事の判断は尊重。署名は制度上では意義があると考える。

佐藤 隆一 議員



燃やして捨てるからの転換ーリサイクル広場を市街地へー

質問 リサイクル広場を市街地へ移転することを検討すべきです。

答弁 移設する考えはありませんが、関心を高める工夫は大切と考えます。

質問 ゴミは分別することで資源となります。最終処分場を延命するためには分別をさらに進めることが必要です。

答弁 周知は「カレンダー」「マニュアル」「分別辞典」でやっています。問い合わせは減少しており、成果が出ています。

質問 有価物の売却収入の先行きをどのように予想していますか。

答弁 アルミ類は24.5%、鉄類は38.3%（令和2年度比）上昇しており、6年度も同水準です。今後の予測は不確定要因が多過ぎる難しいです。

質問 人気のリサイクル自転車を

持ち帰るのに、今は、トラックが必要で。市街地なら乗って帰ることもできます。移転を真剣に検討すべきです。

答弁 市民が施設を訪れていたが、廃棄物処理に対する理解とリサイクルに対する一定の理解に繋がっていることから移設する考えはありません。

質問 自転車は事業者の力を借りるなどして、安価に提供することも考えてはいかがですか。

答弁 小千谷市が収益事業をやることは難しいと考えています。



分別でゴミを資源に

市政の内容を聞く

一般質問

市政の内容を聞く

一般

質問

久保田 陽一 議員



防災について

質問 市内のキッチンカー所有者や事業者の団体と防災協定の検討及び締結を行うべきでは。

答弁 災害時の炊き出し等による温かく栄養バランスのとれた食事の提供は避難生活において被災者の心身の疲れを和らげ、健康を保つうえで重要であることから、関係者との防災協定の締結について、今後検討したいと考えている。

質問 市がキッチンカーを購入、保有し、災害時の活用や、市民への貸出しなど、防災力や支援力の強化につながるのでは。

答弁 災害時に備えて市がキッチンカーを購入することについては、保管場所や維持管理に係るコストなどの課題があることから、情報収集したうえで、平時の他の用途での利用の可能性も探りたい。

質問 地震の揺れを感知して開錠するキーボックスや遠隔操作によ

る開錠などの対策が必要では。

答弁 現在のところ設置する予定はないが、更なる人口減少の進行により、避難所の開設や運営において課題が深刻化する地域については、施設を管理する町内会等の実情を把握したうえで、感震式キーボックスの設置やそれに代わる手段の確保を研究したい。

質問 退職自衛官の防災・危機管理部門での雇用が必要では。

答弁 一定の要件に該当する方を採用する場合の人員費について、特別交付税措置の対象となることも踏まえ、県内自治体の情報を収集し、効果や課題について研究したいと考える。

PFFAS(ピーファス)について

質問 PFFASに対する見解は。

答弁 発がん性などの健康被害が懸念されている有機化合物PFFASの水道水検査を7月16日に市内4カ所の配水区全てで採水し実施、いずれも検出下限値未満であったことを確認。現在のところ、当市での健康被害の報告は確認しておらず、今回の検査からもその可能性は低いものと認識している。

長谷川 有理 議員



小千谷総合病院の維持・存続

質問 市の具体的支援策を。

答弁 県の支援内容を確認し厚生連の経営を当市も支えていく。

質問 医療従事者のモチベーション維持や離職防止の支援策を。

答弁 行政の支援内容を踏まえた上で厚生連や小千谷総合病院で取り組みが進められると考える。

質問 糸魚川市や柏崎市のような新潟厚生連の立地自治体首長の具体的な発言を当市は出来ないのか。

答弁 県の支援内容を踏まえ進める。

質問 呼吸器外科・心臓血管外科、岩沢診療所など、診療科目の見直しの具体的な協議はあるのか。

答弁 協議中。あくまでも主体は厚生連。慎重に、責任感をもって進めるよう要請していく。

質問 急性期機能の再編は具体的に何か。救急外来の変容はあるか。

答弁 全身麻酔が必要な手術を長岡中央病院で行うことを検討中。

質問 提言された人材交流が産科の縮小や統合を早めるのでは。

答弁 人材交流は必要。年間200件の分娩数が採算ベースだが令和3年度228件、令和4年度190件、令和5年度175件で、本年度はさらに減少する見込み。市民や近隣自治体の住民から分娩施設として選んでいただくための一層の取り組みをしていく。

質問 病床数は急性期98床、回復期101床に再変更する予定は。

答弁 現在の急性期50床、回復期98床、慢性期51床のままでいく。

質問 看護学校への具体的進学支援を図り医療人材の確保を。

答弁 看護師や助産師の確保に関する取り組みについて研究する。

質問 医師の偏在是正や維持存続可能な地域医療のあるべき姿をきちんと当市として整理して具体的に市民に提示するために市民アンケートや市民との意見交換や県や国、成功している他自治体の取り組み事例の情報収集を図るべき。

答弁 当市独自の調査は難しい。市として果たす役割について情報収集や市民と連携した地域医療を守る取り組みを研究していく。

廣井 良宣 議員



高齢者の孤立防止について

質問 国立社会保障・人口問題研究所によれば2050年には一人

暮らしの割合が新潟県でも37.2%となり、65歳以上の高齢者では地方を中心に高い傾向。見守り体制で大きな役割を果たしている民生委員・児童委員は当市において欠員は生じていないが、今後サポートする協力員制度や活動費の増額等はどうに考えるか。

答弁 地域福祉の担い手として重要な役割だが、支援対象者の増加など活動範囲の拡大で負担増である。令和7年度の改選でも欠員が生じないよう活動の支援は重要。

町内会長会議で推薦依頼の前倒しを実施、協力員制度についても研究していく。活動費となる調査委託料は活動量の増加を考慮し、令和7年度予算編成で精査する。

質問 一人暮らし高齢者や高齢夫婦世帯が受診や健康診査を受けて

いない場合、個別訪問等を行うのか。かかりつけ医を持たない方には医療や介護をどうつなげるのか。

答弁 74歳までは健康診査の未申込者に受診を働きかけている。75歳から84歳までの住民検診調査の未回答者や未提出者には生活機能調査票で確認し、看護師の個別訪問を実施、介護サービスへつなげ受診勧奨を行っている。

健康増進政策について

質問 健康増進政策は市民一人ひとりが「自分の健康は自分で守る」との自覚と認識を持ち、本人のためだけでなく医療費の抑制に役立つとの視点で拡充を進めるべき。

おぢやこいこいポイントカード事業について利用者の推移、各種健康診査結果や医療機関受診に及ぼす影響、同事業の参加者目標値、今後の参加者増に向けた取り組みについて見解を伺う。

答弁 参加者数は減少傾向にあり具体的な成果が見えにくい状況。今年度から事業の見直しを進めている。目標値も今年度に事業の大幅な見直しを行い、自主的な健康づくりの取組も対象に加えたことなどからその効果を検証し定める。

平澤 智 議員



リーダー養成研修をはじめ若い世代が活躍する事業について

質問 リーダー養成研修について主催者としての所感と内容の検証結果について。

答弁 参加者へのアンケートの結果、相手との向き合い方が変わり行動も変わった。自分の癖や傾向、得意、不得意を認識することができた。自己変革や意識の変容を実感した等、一定の成果があったものと評価している。

質問 地域の一体感の底上げや交流の継続の検証結果について。

答弁 異業種の受講生同士の交流を深めることを目的として毎回グループメンバーを変更するなどして工夫した。本講座をきっかけに受講者同士が交流を深め、今後所属する企業・団体において活躍するとともに地域課題の解決や、まちづくりに力を発揮していただくことを期待している。

質問 問題・課題等今後の検討について。

答弁 受講者を送り出す企業側からは継続を希望する意見があった一方で勤務との調整の難しさなどがあり、参加しやすい環境作りの改善もあると受け止めている。講座の在り方を検討してゆく。

質問 若い世代の人たちが多く参加している活動に対する評価と見解、またこれからの期待すること。

答弁 「ホリデーポップアップショップ」等若い世代の方々が主体的に企画・運営に携わるイベントは同世代の共感や関心呼び起こすことにより交流や出会いが生まれ、地域やまちの活性化にもつながる。人口減少が社会に深刻な影響を与える中、周囲に元気と勇気を与えるものであり、当市としても若者がやりたいことを見つけ、志を同じくする者同士交流を深め、挑戦できる環境を整えてゆきたいと考えている。当市が重点政策として「Uターン支援」や「まちの魅力再生」「女性活躍」等々は、若者が意欲を持って挑戦できる環境づくりにもつながることから実践を積み重ね成果を出す。

市政の内容を聞く

一般

質問

内山 博志 議員



選挙権の保障のために

質問 投票の際、一人の係員は手元が見える位置にいたので背中を向けて書いた。気分が悪かった。

最高裁判所裁判官国民審査の時、本人は投票用紙を係員に返そうとしたが係員から投票するよう促された。投票した現場を立会人が見ていた。未記入で投票すれば承認したことになる。今後の対応は。

選挙管理委員長答弁 指摘の事案は遺憾だ。真摯に受け止め、速やかに改善策を講じたい。

柏崎刈羽原発再稼働と

市の対応について

質問 小千谷市の避難計画の現状は。県知事へ市として意見をどうあげるのか。県民の声を反映させる「県民投票」について伺う。

答弁 広域避難計画は、多方面での要因に対応し、実効性を高め随時修正する。市町村研究会などあらゆる活動を通じ降雪時の複合災

害対策など県に伝え続ける。県民投票は間接民主制を補完する仕組みで意義がある。

「重点支援交付金」活用について

質問 今回、国の補正予算で成立した交付金は、不十分ながら中小

企業対策、給食費、介護、医療、保育支援にも活用が可能だが市の基本的考えを伺う。

答弁 非課税世帯に3万円、18歳以下の子供1人に2万円の加算がある。地域の実情をふまえ物価高騰で影響を受けている市民が必要な支援を速やかに実施したい。

介護保険利用体制確保のために

質問 4月に訪問介護の基本報酬が引き下げられ、事業所の経営は大変だ。人件費を上げられず人材不足で市内でも県内外でも事業所の撤退が相次いでいる。他の自治体では事業所への支援など広がっている。市内事業所の実態はいかがか。市としても喫緊の対応が必要ではないか。

答弁 11月アンケート調査を実施、結果を集計し分析中。ケアマネージャーなど介護人材確保には、支援補助制度を実施しており、活用して欲しい。

住安 康一 議員



木造住宅の耐震化を

質問 耐震診断および耐震改修が

進まない現状についての見解と、住宅耐震化率の令和7年度末目標85%達成に向け、次年度においてはどのような手を打っていくのか。

答弁 耐震性能を満たしていない住宅の多くは、後継者のいない高齢者が居住していることが挙げられる。耐震改修の必要性を理解していても、改修後の居住期間や改修コストなどを考え、改修を遠慮しているものと推察。また、自宅

が耐震基準を満たしていないことを認識されていない方も少なくないと考えられる。今後は、耐震性を満たさないと見込まれる住宅の所有者を対象に意向調査を速やかに実施するとともに、耐震診断士が多く所属する小千谷市建築士会の協力を得て、官民連携による戸別訪問を行い、耐震改修を直接働

きかける機会を作っていく。

質問 耐震診断や耐震改修を進めるため、耐震改修費補助金の受領委任払いを可能にする制度を設けることを提案。見解は。

答弁 前向きに検討する。

学校の防災について

質問 学校で作る防災マニュアルをより良くしていくためには、作

成・見直し・改善をするうえで、学校だけではなく、地域や行政機関、防災の専門家などの力を借りて、より実効性のある防災マニュアルにすべきと考えるが、見解は。

教育長答弁 「学校防災マニュアル作成の手引き」に基づき、消防

職員や地域の防災士から意見をいただくなど、より実効性を伴ったマニュアルとなるように研究する。

質問 避難所となる学校における避難所利用計画は作成していない。

避難所利用計画を学校や行政関係者、地域住民や防災関係者を交えて早急に作るべき。見解は。

教育長答弁 事前に学校施設をど

のように利用するかを定めておくことは、大切であると認識。防災安全課や学校等との連携により、速やかに利用方針を定める。

佐藤 瑞穂 議員



片貝市街地のまちづくりについて

質問

小千谷市立地適正化計画では医療や福祉、子育て、商業など「日常的に最低限必要な生活サービス機能を維持・誘導」と誘導方針や実現化方策を示すが、片貝市街地における誘導施設であるデイサービスなどを担う高齢者施設と障害者施設は当初から1件も立地せず、さらに昨年9月、商業の誘導施設であったスーパーが閉店し、生活拠点の基盤が失われる事態となった。将来的なまちづくりを捉えた立地適正化計画に則り、スーパー等の誘導施設を再び確保する具体的な施策が必要では。

答弁

商業施設を誘導する補助事業創設の予定はないが、関係課の連携により商業施設の立地等に関する情報収集に努め、民間事業者からの相談には積極的に対応する。高齢者や障害者の福祉施設の立地は当市の補助事業をはじめ国や県

の支援事業も考慮しながら関係課が連携して事業者に情報提供する。

質問

小千谷の「北の玄関口」たる片貝市街地で「市民本位のまちづくり」による重点施策など挑戦的な取り組みの余地もあるのでは。

答弁

片貝は、地域資源の魅力や道路交通の利便性などの強みを活かし、結束力のある地域コミュニティにより様々な取り組みに挑戦できる可能性があることから、今後地域の将来像を住民と共有する意識で施策を推進する必要がある。

歩道と景観の整備について

質問

第一工業団地沿線から小栗田地内、千田小・中学校までの通路では歩道整備が不十分な区間がある。また県道坪野三仏生線と南北の農道との交差点は事故頻発地となっている。歩行者の安全安心を確保する働きかけが必要では。

答弁

第一工業団地から千田小学校までの通学路の一部では歩道が未整備であり、今後整備を進める必要があると認識。県道坪野三仏生線と農道との交差点は危険箇所としてリストアップしており、警察や県などと連携して安全確保に向けた対策に取り組んでいる。

佐藤 勝義 議員



保育士不足の現状と今後の対応について

質問

国の保育士配置基準に対し現状は十分なのか。保育士へ今後のアクションプランをお示しする必要があると思うが見解を伺う。

教育長答弁

保育園適正配置基本方針に基づく実施計画の検討をすることとし、その状況に応じて現場職員に将来像を示したい。

質問

現在の保育士確保に向けた働きかけ、今後の取組を伺う。

教育長答弁

保育実習やインターシップの積極的な受け入れや、有資格者の確保を目指し採用試験の拡大を図った。今後は学校とのパイプづくりと、就職支援サイトやの正式活用にて採用関連情報を細やかに伝えて行く。

学童保育の在り方について

質問

学童保育運営者側の要望等の収集と、その実行状況を伺う。

教育長答弁

要望や課題は随時対

応し、運営を支援している。

質問

学童現場の視察は定期的に実施しているのか。不定期での実施なのか。

教育長答弁

必要に応じて現場の確認を実施しながら、補助内容の見直しや拡充を図っている。

質問

学童環境改善支援のための予算を設けてはどうか伺う。

教育長答弁

事業者との意見交換を行ったうえで緊急性を把握し、適切な予算確保と効率的な補助金の交付に努める。

質問

学童設立補助金制度の導入も必要と考えるが見解を伺う。

教育長答弁

開設補助金は国の補助事業を活用するが、準備期間も必要となるため、有効利用していただけるよう周知して行く。

質問

中学生・高校生も、居場所として受入れているクラブもあるが、その現状を把握しているのか。こういったニーズを、今後どのような形で展開されるのか伺う。

教育長答弁

学生が学童保育を手伝っているクラブがあることは承知している。今後は関係機関と連携しながら必要に応じた支援に努めたいと考えている。

市政の内容を聞く

一般

質問

和田 忠篤 議員



人口減少抑制の対策について

質問 「地方創生の取組に人口減少抑制の十分な効果があったか」という問いに対し、当市は「どちらかといえば不十分」と回答した具体的な理由について伺う。

答弁 当市は、平成26年からの10年間で人口がおよそ5千人、率にして約13%減少。「消滅可能性自治体」に分類されるなど、深刻な人口減少に直面している。国全体で人口減少に取り組む大きな視点に立った政策や、地方でも住民が安心して住み続けることのできる長期的視点に立った取組が不足している現状を踏まえ、「どちらかといえば不十分」と回答した。

質問 自治体間の競争、移住者獲得競争などが起きている現状の中、当市はこの課題をどのように認識し、対応していくのか伺う。

答弁 全国の自治体間での移住者の獲得競争による人口減少抑制に

は限界があるため、現在市内に住んでいる市民を市外に流出させない取組や、市外に住む当市出身者がふるさとに帰ってくる取組のほか、関係人口を拡大する取組が必要と考えている。

質問 女性活躍サポートチームの手応えや進捗状況、今後の展望について伺う。

答弁 異業種企業間の交流や意識の醸成を図りながら、女性がより働きやすい環境の整備と課題解決に向けた具体的な支援策の検討のほか、女性起業家の育成支援や女性が働きたい職種の研究などに、官民を挙げて取り組んでいきたい。

「ホントカ。」の学習スペースなどについて

質問 カウンター席が不足しているように感じられる。フロートエリアの窓際に学習に適した机の配置を検討しないのか伺う。

答弁 現段階では、固定式のカウンター席の増設を検討する予定はない。また、カウンター席に代わる学習に適した机の配置については、学習以外にも、読書をする場所など様々な利用形態を想定して居場所を確保したいと考えている。

田中 淳 議員



男女の人権尊重について

質問 ストーカー行為・DV行為での被害者の安全確保や保護、自立した生活が営まれることを目的とし、弁護士と相談を密にしながら、市役所内に配偶者暴力相談支援センターの機能を設置すべきと考えるが市の考えを問う。

答弁 当市としては現在、窓口相談として職員が対応にあたっているが、一層の支援体制を整える必要があると考えており、配偶者暴力相談支援センターとの連携を含め支援体制の整備に務めていきたい。また、弁護士との連携については、他市の事例を参考にしながら、研究をしてまいりたい。

質問 配偶者暴力相談支援センターは、新潟県、新潟市、長岡市で運営されているが、長岡地域定住自立圏共生ビジョンの中で盛り込み、取組んでゆく考えはあるか。

答弁 定住自立圏共生ビジョンの

中で考えてゆくことは重要と考えている。業務連携等参考にしながら取組んでまいりたい。

近隣トラブル相談について

質問 これまでのトラブル相談の事例により解決に向け行政が取り組むべき課題解決をどう考えているか。また、暴力行為等の相談で弁護士等による担当部署内での勉強会の実施状況をお聞かせ願う。

答弁 相談者の意向を十分確認し、適切に相談機関につなげることが重要と考えている。人権侵害の疑いがある事案については、人権擁護委員による相談を端緒として法務局において当事者間の関係調整を行う。また、庁舎での弁護士等による暴力行為に特化した勉強会は一環として、前向きに検討する。

質問 相談窓口として、民法709条による「他人の権利又は法律上保護される利益」いわゆる、受忍限度の判断基準やマニュアルは整っているのか。

答弁 基準については手元に資料がなく不明だが、市としては人権擁護委員が同じ対応をとれるよう、情報共有してまいりたい。

森本 恵理子 議員



救急医療について

質問 いざという時のための救急医療情報キットの配布について周知徹底を行うべきでは。また希望するすべての市民が利用できるように環境を整えることが必要では。
答弁 周知を強化していきます。また、希望者に対しての方策については研究していきます。

空家管理活用支援法人について

質問 早急に取組を進め、地域活性化につながる必要があるのでは。
答弁 指定方針について研究中であり、しくみを検討していきます。
二地域居住について

質問 二地域居住の可能性や実現に向けた具体的施策、目標は。

答弁 今後の推進に向けて研究に取り組み始めたところです。

質問 特定居住促進計画の必要性

と本市での検討状況・策定予定は。
答弁 二地域居住の推進に向けた研究を進めていくにあたり、計画

策定の必要性も検討していきます。
企業と人材のマッチングについて

質問 農業体験や短期的な製造業従事など、小千谷市ならではの特性を活かした小さなニーズにも対応可能なマッチングサービスの導入について見解を伺います。

答弁 農業体験を希望する人と生産農家とを効果的に結び付ける仕組みを検討する必要があると考えています。魚沼農業協同組合が運用しているアプリについて、来年度中に当市でも運用を開始できるように協議を進めてまいります。

質問 移住を検討くださる方にとって住まいと仕事が重要です。お試し住宅や移住体験ツアー、短期仕事体験の導入で移住促進を進められるのではないのでしょうか。

答弁 お試し移住用住宅の整備の取組について研究していきます。
防空壕安全対策について

質問 本市で特殊地下壕の現状を把握、調査したことはありませんか。

答弁 調査記録の存在は確認されていません。

質問 危険性について調査・確認することは防災面でも重要では。

答弁 実施する予定はありません。

議会運営委員会

令和6年11月11日

通年議会及び議会図書室について

柏崎市

通年会期制は、4年に1度の改選後や、議会の解散後初めての会議のみ、市長が招集することになる。休会中の再開は、議長の権限でできるので、迅速な対応ができることは通年議会の良いところで、これを生かしていければ議会活性化につながるのではないかと考える。

議会図書室は令和4年3月に「アクションプラン」政策立案・質問づくり資する議会図書室を「目指して」を策定し、原子力アーカイブコーナーの充実、レファレンス機能（市立図書館との連携）の追加、市民も利用可能な環境整備を図っている。議員が政策立案に必要な情報は多種多様で、膨大である。必要な書籍・資料の選定も含め、政策立案・質問づくり資する議会図書室の充実をめざし、検討していきたい。

市議会政治倫理規則及び市議会ハラスメント防止条例について

糸魚川市

近年、様々な人権侵害が広く話題になり、規則や条例制定の必要性が議論されている。糸魚川市議会では、条例と規則があるが、ハラスメント防止条例は「しない・させない・見逃さない」を想定したものであり、政治倫理規則は、それ以外の遵守を規定していて、両者は補完し合う関係である。条例の制定後は議員の意識が高まっているようだ。条例は、議員の自由な発言や活動を制限するものではない。条例制定などの議論を深める上で、導入根拠となるアンケート調査などを通じて実態を把握することが必要であるとともに、相談体制の整備は重要であると感ずる。



市政の内容を聞く

一般質問

行政視察報告

小千谷高等学校との 座談会

10月10日、小千谷高校2年生が小千谷について探求する「小千谷学」の学習に多数の議員が参加し、観光や商店街活性化、国際交流、防災、伝統文化など11のテーマごとに生徒の皆さんと活発に質問意見を交わしました。

今回は高校からの打診で実現しました。議員も高校生の瑞々しい視点に刺激を受けました。



本会議をインターネット中継しています

市議会ホームページからインターネットライブ中継でご覧いただけます。

本会議当日のライブ中継のほか、本会議終了後概ね1週間後には、録画映像も配信しています。

市政への一般質問で各議員の顔写真の下に二次元コードを掲載しています。

スマートフォンやタブレット端末で読み取ると、各議員の一般質問の録画中継をご覧いただけます。

また、会議録も市議会ホームページで閲覧できます。

(令和6年第4回定例会の会議録掲載は、2月末頃となります。)

URL <https://www.city.ojiya.niigata.jp/site/gikai/>

小千谷市議会

検索

市議会を傍聴してみませんか

第1回定例会開催予定

2月25日(火) 第1日	議案上程説明
2月26日(水)~3月5日(水)	各常任委員会で審査
3月17日(月) 第2日	一般質問
3月18日(火) 予備日	一般質問(質問者が多い場合に開催)
3月25日(火) 最終日	委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel83-3505)へお問い合わせください。

委員会の傍聴については、あらかじめ議会事務局へお申し出ください。

市議会だよりをアプリで配信中



マチを好きになるアプリ

スマートフォンやタブレット端末で使える無料アプリ「マチイロ」で配信中です。ぜひご利用ください。



Android用



iPhone用

あけましておめでと
う。本年が市民
の皆様にとりま
して幸多
き一年となりま
すよう心
からお祈り申し
上げます。
昨年は、旧小千
谷総合
病院跡地に待望
の「ホン
トカ。」がオー
プンし、多
くの方々を訪
れる姿が印
象的でした。ま
た、駅前
には勉強スベ
ースが二か
所オープンし、
学生の新
たな居場所と
して活用が
見込まれてい
ます。一方
で、長年親しま
れてきた
「ちぢみの里」
が本年三
月で営業休止
となること
が決まり、特
に東地区の
方々の居場所
の必要性が
改めて感じら
れるところ
です。そして、
来年には
防災センター
が防災公園
内にオープン
予定であり
、新たな拠点
となる可能性
に期待が寄せ
られます。
人口減少や人
とのつなが
りの希薄化が
進む中で、
家や学校、職
場に続く「第
三の居場所」
の重要性が
増してきてい
ます。
市民の皆様が
笑顔で過
ごせる居場所
のありかた
を模索しなが
ら、小千谷
市が新たな街
となつてい
くように、祈
念するとま
いに引き続
き尽力して
まいります。

編集委員 森本恵理子

編集後記